

朗読部門講評

1年生の皆さんにとっては初めての大会で、録音用のマイクやICレコーダーに向かった表現は難しかっただろうと想像しながら聴いていました。本当なら会場で、集まったみんなに聴いて欲しかっただろうし、他の人の朗読も聴いてみたいと思ったことでしょう。

一人ひとりの朗読については審査員の先生方が講評用紙に書いてくれていますので、ここでは全体的な話を4つします。

・朗読では、間がとても大切です。句点や読点でなくても、表現する上で必要であれば間をとります。どこで、どれくらいの間をとるのが表現の幅を広げます。間にも意味があり、重要な表現方法のひとつです。ですから、自分の息が苦しいからではなく、文や文章の流れの中で適切な位置で間を取るといいと思います。間の長さで、前後の意味が変わってしまうこともあり得ます。適切な位置で、適切な長さの間を心掛けてください。

・地の文と「 」のセリフで表現方法を変える場合や、地の文であっても感情を表現した部分では、主に声の調子とペースを変えるのが良いと思います。声色を変えて表現していたひが多かったですが、朗読の「 」や感情は演じて表現するものではありません。とくに劇のように感情を乗せてしまうと朗読全体の世界観が崩れてしまいます。声の張りや息の量を調節したり、ペースを変えることで人物や感情を表現できるようにしましょう。

・録音する環境にも注意しましょう。指向性の高いマイクを使ったり、放送室にひとりが入って録ったり、ICレコーダーを持って静かな環境に行ったり、防音用のカバーを作ってみたり、できるだけ自分の声以外の音が入らないよう工夫すると思います。声をしっかり録ることができると、ラジオ番組を作る時にも役立つはずです。

・練習のときには、誰かに聴いてもらいましょう。表現が届いているかどうかは聴いてもらわないと分からないものです。録音して自分自身で聴くことも大切ですが、自分ではない誰かに客観的に判断してもらうほうが早く上達すると思います。もちろん、自分が朗読を聴くことも大切です。先輩や過去の録音されたものなどから良いものをどんどん吸収してください。

以上です